

第1部 総論



第2章

戸田市の子ども・子育ての現状

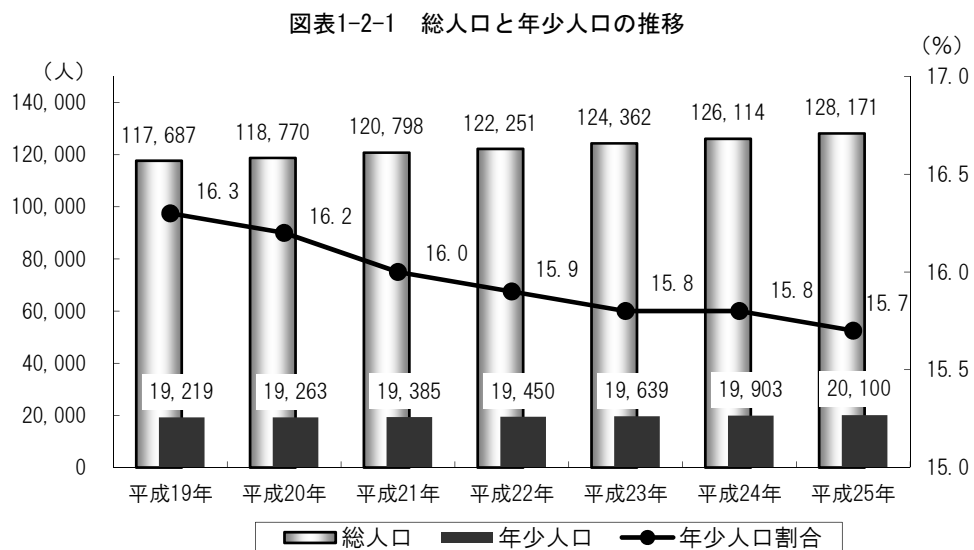
第2章 戸田市の子ども・子育ての現状

1 人口動態と子ども世帯

(1) 総人口と年少人口の推移

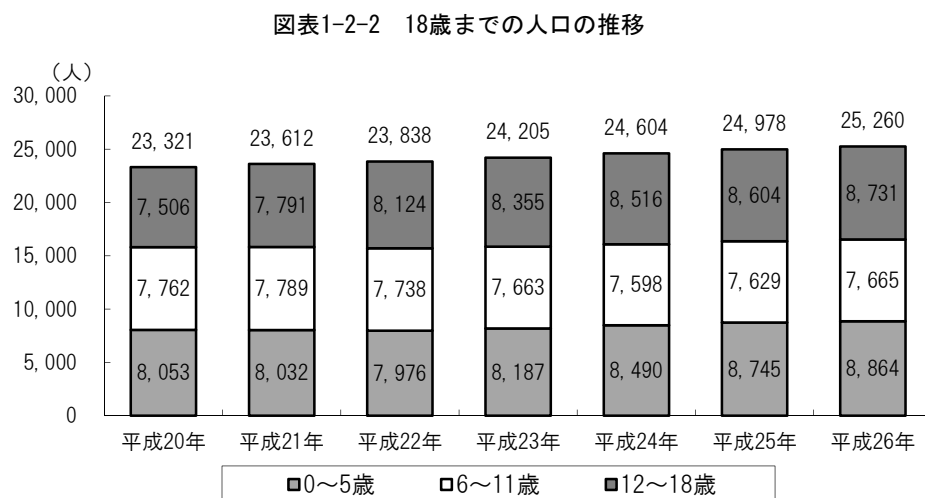
戸田市の人口は、平成25年1月1日現在、128,171人で平成19年から増加傾向で推移しています。

年少人口（15歳未満）においても、平成19年の19,219人から微増傾向で推移し、平成25年1月1日現在20,100人で、平成19年から881人の増加となっていますが、年少人口割合は15.7%と減少傾向で推移しています。



資料：埼玉県年齢3区分人口

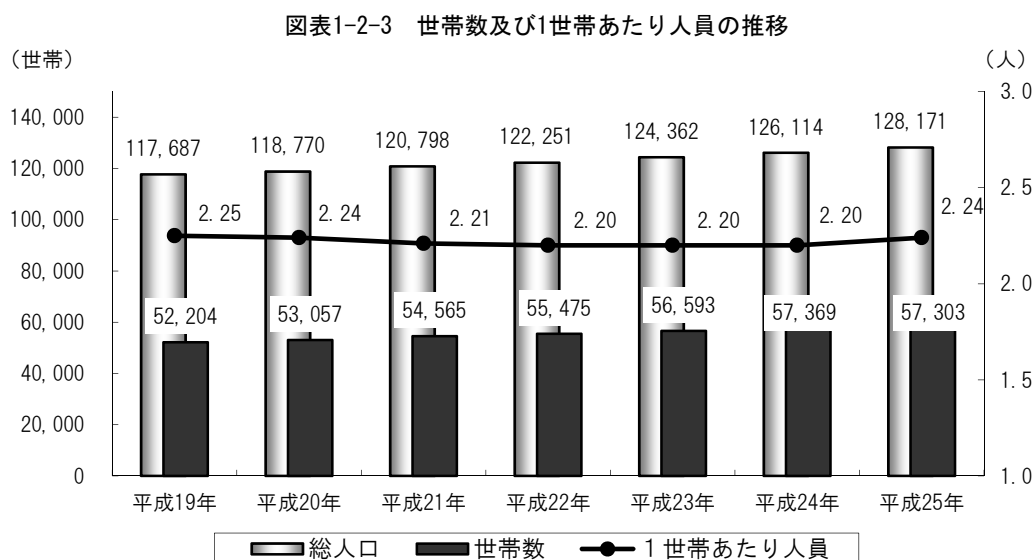
0歳から18歳までの人口は、増加傾向にあり、「12～18歳」「0～5歳」人口が増加しています。



資料：統計とだ 情報統計課

(2) 世帯数及び1世帯あたり人員の推移

世帯数は、平成19年から増加傾向で推移し、平成25年1月1日現在、57,303世帯で平成19年から5,099世帯の増加となっています。1世帯あたり人員は横ばいで推移しており、平成25年1月1日現在の1世帯あたり人員は2.24人となっています。



資料：埼玉県 第1表市区町村別・町（丁）字別世帯数及び男女別人口

(3) 世帯の家族類型

国勢調査による家族類型別世帯数をみると、平成22年時点の核家族世帯(28,563世帯)は、総世帯数(54,149世帯)の52.7%を占め、特に「女親と子ども」世帯、「夫婦と子ども」世帯が平成7年からの増加が顕著となっています。また、単独世帯も1.7倍で最も増加率が高くなっています。

図表1-2-4 世帯の家族類型の推移（核家族世帯・単独世帯のみ抜粋）

単位：世帯

家族類型別世帯数	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年		
				平成22年	6歳未満親族のいる世帯(再掲)	18歳未満親族のいる世帯(再掲)
総数	38,629	44,331	49,059	54,149	6,053	13,539
核家族世帯	22,859	25,483	27,481	28,563	5,614	12,098
(1)夫婦のみ	6,602	7,610	8,329	8,676	-	-
(2)夫婦と子ども	13,822	15,056	15,782	16,138	5,425	11,076
(3)男親と子ども	539	532	653	696	12	123
(4)女親と子ども	1,896	2,285	2,717	3,053	177	899
単独世帯	12,723	15,457	18,034	21,763	-	132

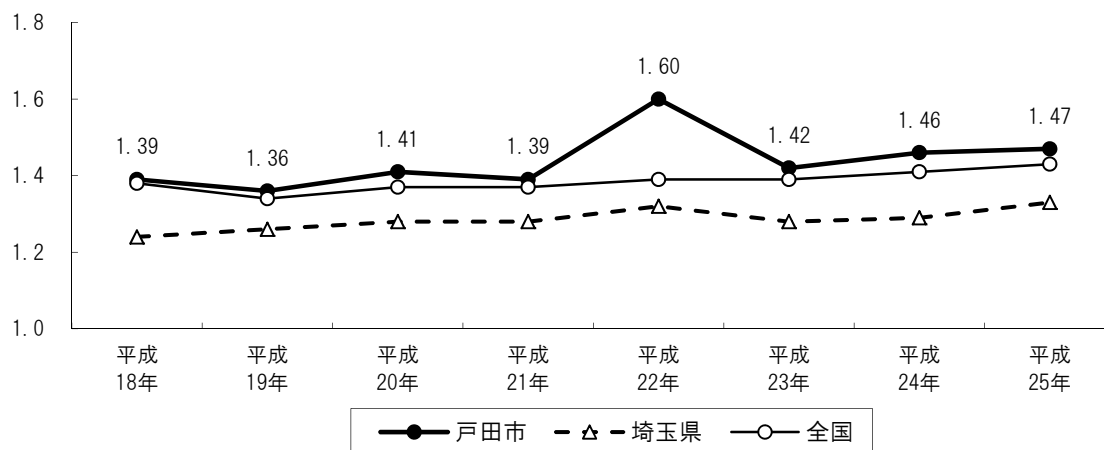
資料：国勢調査

2 少子化の動向

(1) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率の推移をみると、平成25年時点で1.47となっており、平成18年以降、県及び全国を上回っています。

図表1-2-5 合計特殊出生率の推移

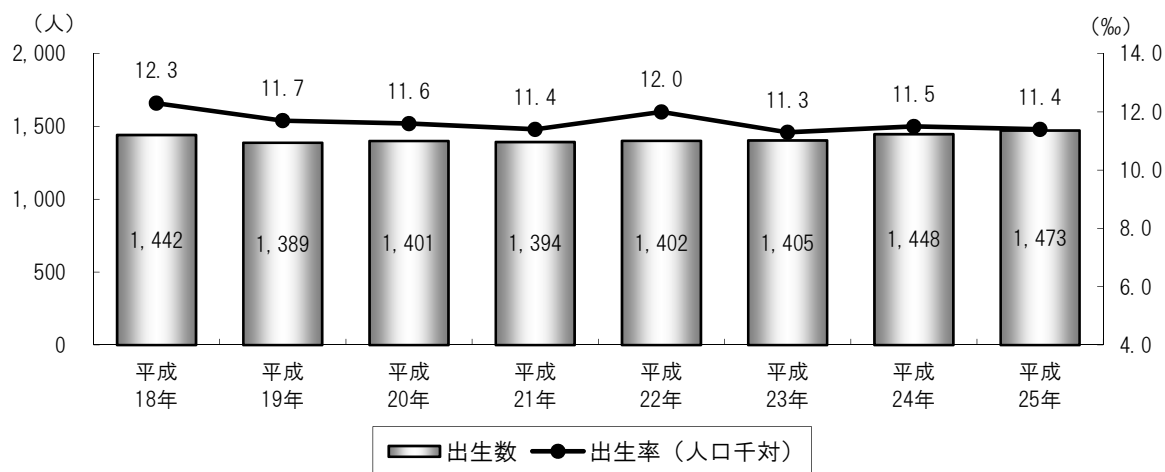


資料：埼玉県人口動態総覧

(2) 出生数、出生率の推移

出生数、出生率（人口千人あたり）の推移では、出生数は増減を繰り返し平成25年時点では1,473人で近年では最も多くなっています。出生率（人口千人あたり）は11.4‰（パーミル）となっています。

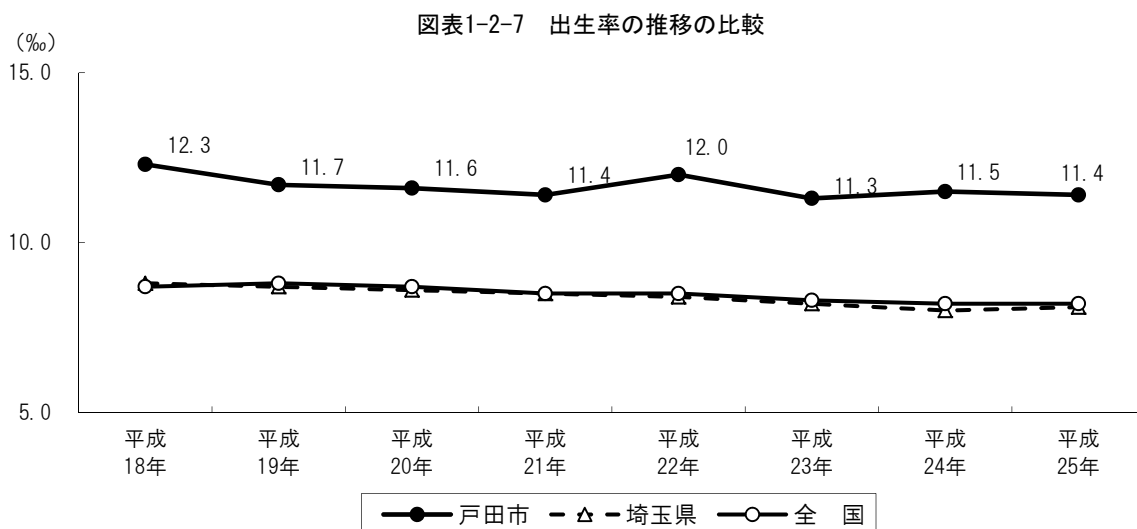
図表1-2-6 出生数、出生率の推移



資料：埼玉県人口動態総覧

(3) 出生率の推移の比較

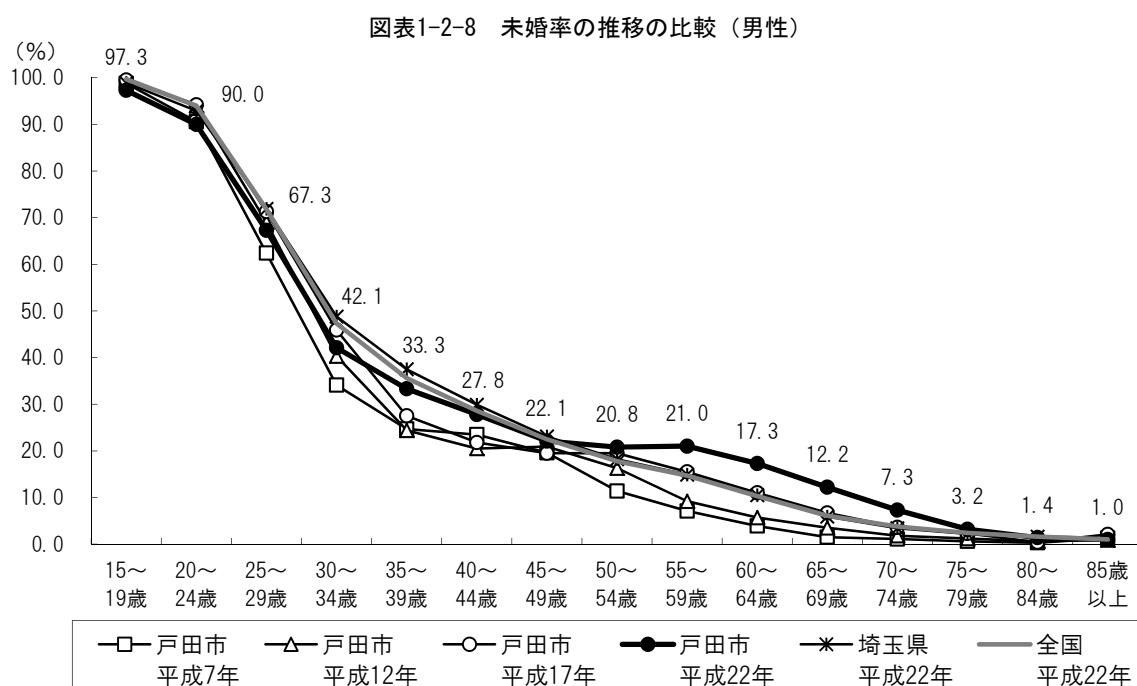
出生率（人口千人あたり）の推移をみると、平成18年以降は県及び全国を大きく上回っています。



資料：埼玉県人口動態総覧

(4) 未婚率の推移と比較（男性）

国勢調査によると平成22年時点の男性の未婚率は、30～34歳が42.1%、35～39歳では33.3%となっており、3人に1人が未婚者となっていますが、県及び全国を下回っています。また推移をみると35～84歳において平成17年に比べると高くなっています。

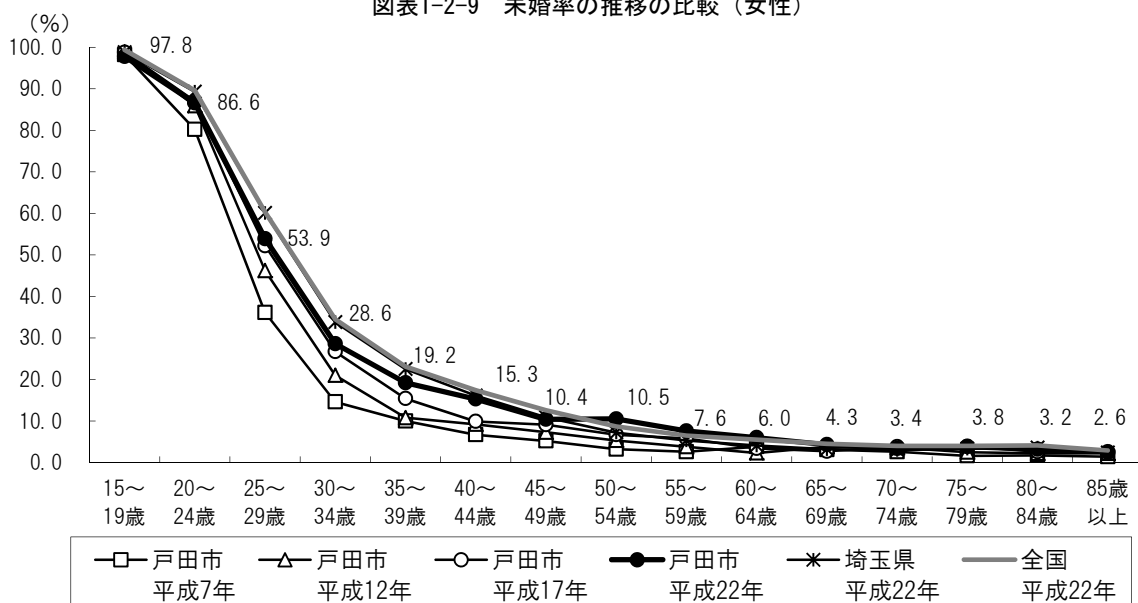


資料：国勢調査

(5) 未婚率の推移と比較（女性）

国勢調査によると平成22年時点の女性の未婚率は、25～29歳で53.9%、30～34歳で28.6%、35～39歳が19.2%といずれも、県及び全国を下回っています。平成7年との比較から推移でみると未婚率が高く推移しており、晩婚化が進行していることがうかがえます。

図表1-2-9 未婚率の推移の比較（女性）

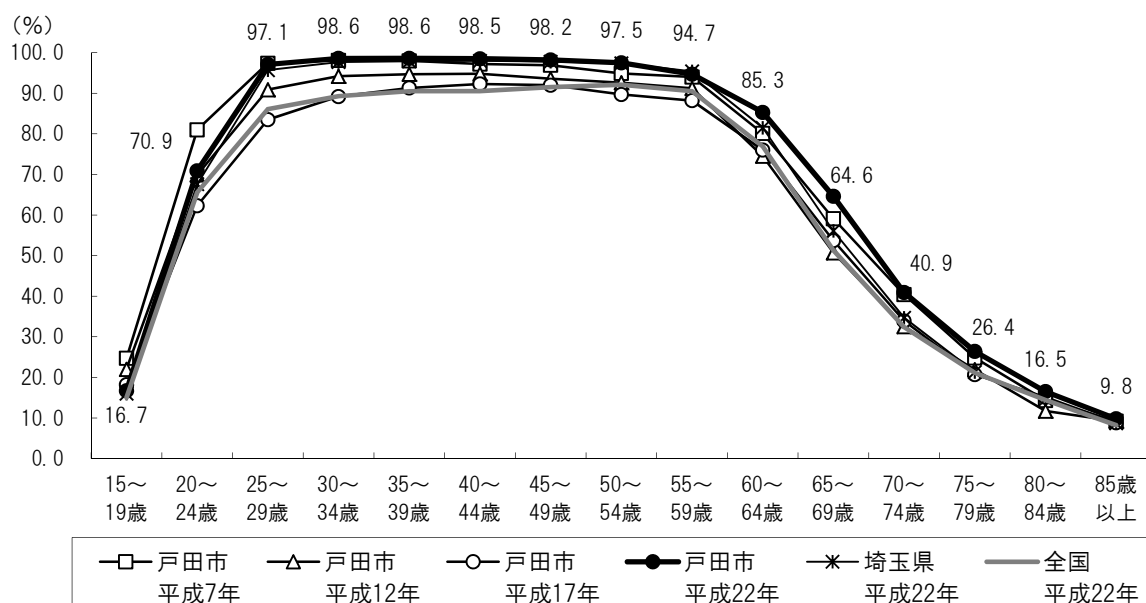


資料：国勢調査

(6) 年齢別労働力率の推移と比較（男性）

国勢調査によると、平成22年時点の男性の労働力率は、30歳代～40歳代で98%台を維持しており、県及び全国を上回っております。また、推移をみても各年齢層で労働力率は高くなっています。

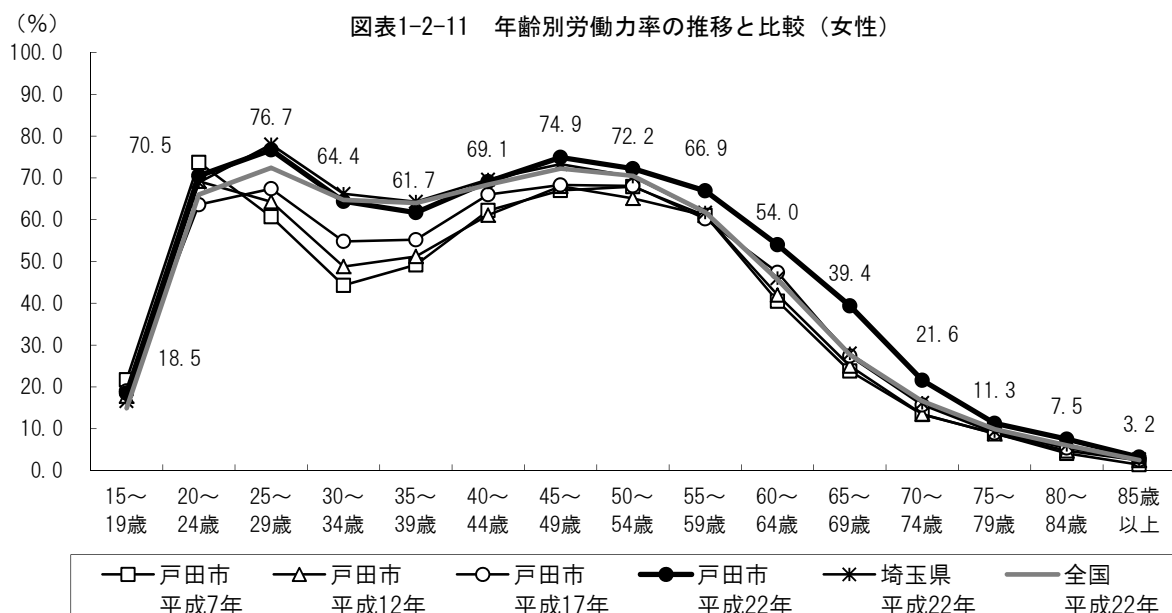
図表1-2-10 年齢別労働力率の推移と比較（男性）



資料：国勢調査

(7) 年齢別労働力率の推移と比較（女性）

国勢調査によると平成22年時点の女性の労働力率は、30歳代で県及び全国を下回っています。平成17年と比較すると各年齢層で高くなっています。特に45歳以上では県、全国を上回っています。全体的に女性の労働力率は上昇しており、M字からほぼ脱却できる傾向を示しています。



資料：国勢調査

(8) 母の年齢別出生数の推移

母の年齢別出生数の推移をみると平成18年から「20~24歳」「25~29歳」「30~34歳」が減少し、一方で「35~39歳」「40~44歳」は増加しており、晩産化傾向が進行していることがうかがえます。

図表1-2-12 母の年齢別出生数の推移

単位：人

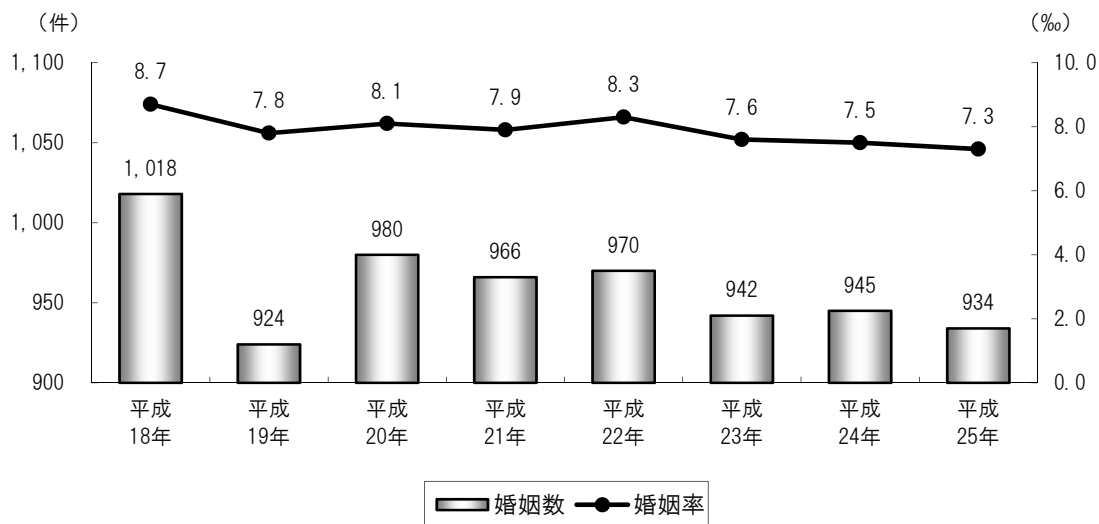
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
総数	1,442	1,389	1,401	1,394	1,402	1,405	1,448	1,473
15歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-
15~19歳	12	9	16	10	14	11	10	16
20~24歳	129	125	120	106	117	113	116	100
25~29歳	413	354	400	379	389	398	412	369
30~34歳	618	594	529	541	532	496	536	571
35~39歳	232	264	296	307	305	330	314	342
40~44歳	23	41	30	51	41	55	59	72
45~49歳	0	1	1	0	4	2	1	3

資料：埼玉県人口動態総覧

(9) 婚姻数、婚姻率の推移

婚姻数は、平成25年時点で934件となっています。婚姻率（人口千人あたり）でみると7.3‰（パーミル）で近年では最も低くなっています。

図表1-2-13 婚姻数、婚姻率の推移

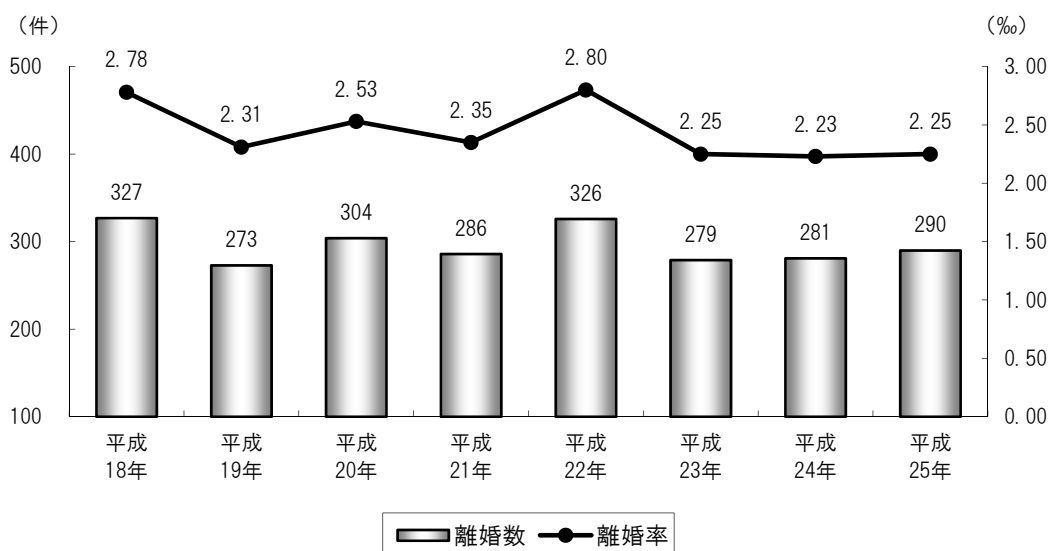


資料：埼玉県人口動態総覧

(10) 離婚数、離婚率の推移

離婚数は、平成25年では290件となっています。離婚率（人口千人あたり）は2.25‰（パーミル）となっています。

図表1-2-14 離婚数、離婚率の推移



資料：埼玉県人口動態総覧

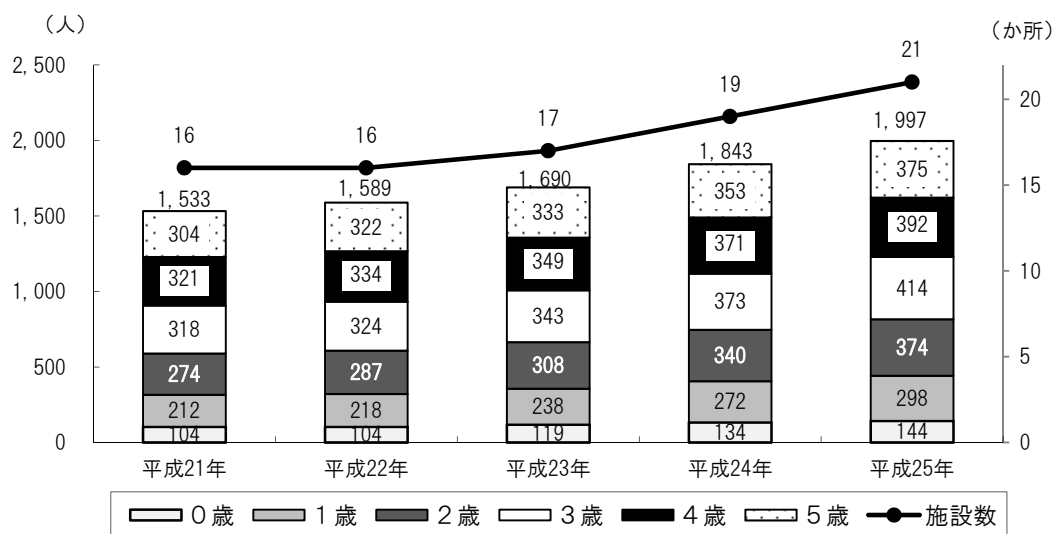
3 保育環境・教育環境の状況

本市の保育所入所児童数の推移をみると施設数の増加に加え、各年齢層において増加が顕著となっています。

また、保育所待機児童数は、平成25年4月1日現在、34人となっています。年齢をみると「1歳」が16人で最も多く、次いで「2歳」が15人となっており「1～2歳」が大半を占めています。

(1) 保育所入所児童数

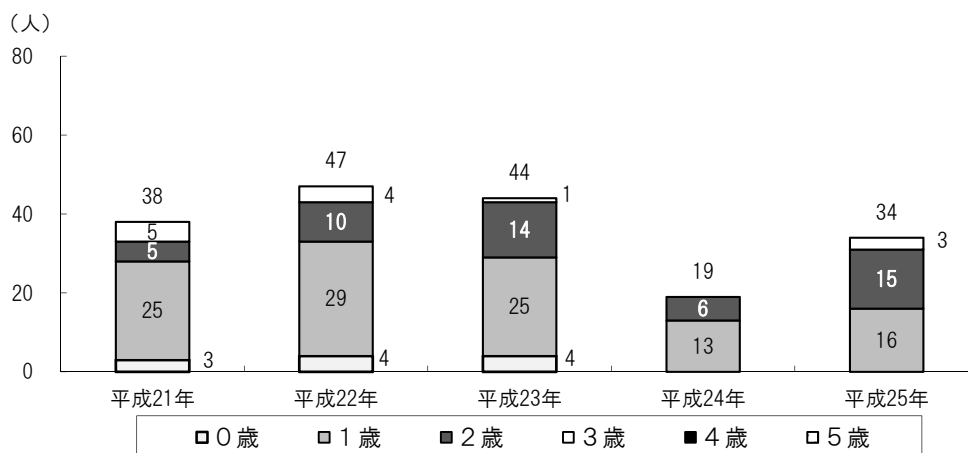
図表1-2-15 保育所入所児童数



資料：保育幼稚園課（各年4月1日現在）

(2) 保育所待機児童数

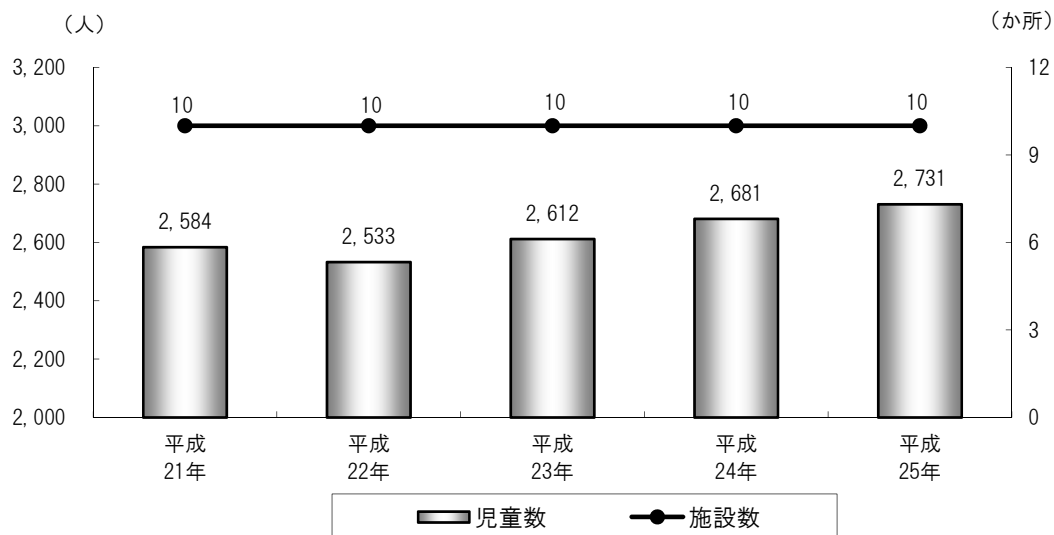
図表1-2-16 保育所待機児童数



資料：保育幼稚園課（各年4月1日現在）

(3) 私立幼稚園の入園児童数

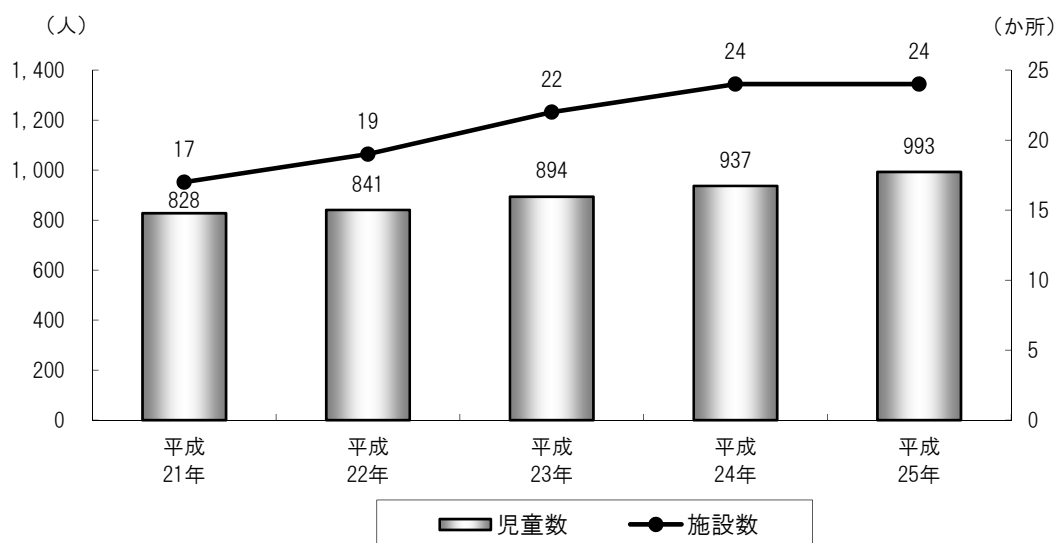
図表1-2-17 私立幼稚園の入園児童数



資料：保育幼稚園課（各年5月1日現在）

(4) 学童保育室入室児童数

図表1-2-18 学童保育室入室児童数



資料：児童青少年課（各年4月1日現在）

4 戸田市の子育ての現状

戸田市の子育ての現状について、子ども・子育て支援ニーズ調査独自項目の他、市民意識調査を実施しました。

(1) 子ども・子育て支援ニーズ調査

■調査時期と調査方法

調査時期：平成25年10月15日～10月31日

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

■調査の配布・回収状況

図表1-2-19 調査票の配布・回収状況

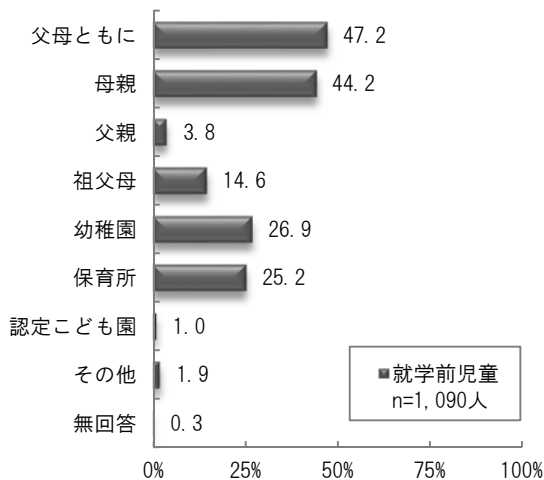
調査対象者区分	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
地域						
市全域	2,500人	1,090人	43.6%	1,500人	659人	43.9%

■調査結果

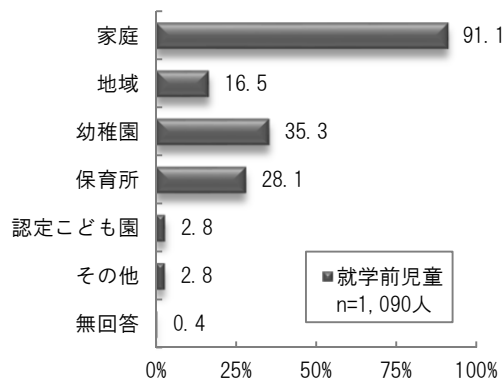
①子育てを取り巻く環境

▼ 日常的に子育てに関わっている人を見ると「父母ともに」(47.2%)が最も多く、次いで「母親」(44.2%)となっています。また、子育てに最も影響を与える環境では「家庭」(91.1%)が9割を占めています。

図表1-2-20 日常的に子育てに関わっている方（施設含む）

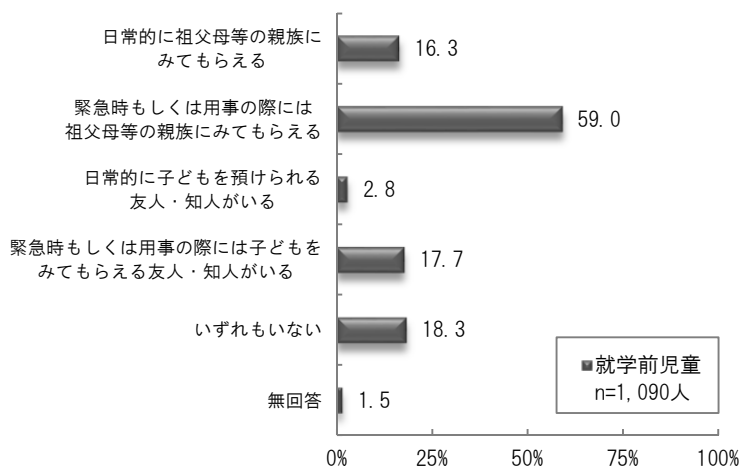


図表1-2-21 子育てに影響を与える環境



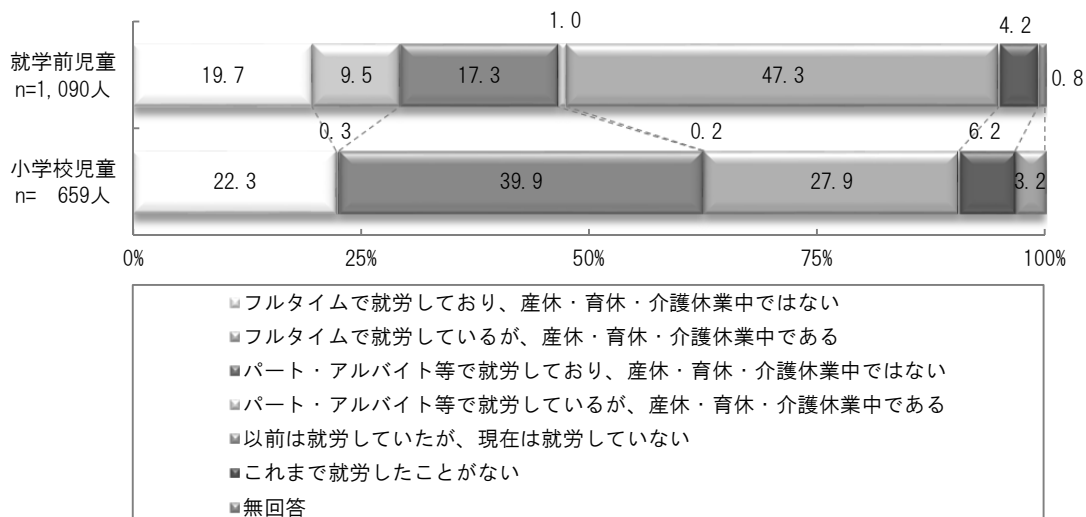
- ▼ 主な親族等協力者の状況では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(59.0%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(17.7%)となっています。一方で、「いずれもない」が(18.3%)となっています。

図表1-2-22 主な親族等協力者の状況



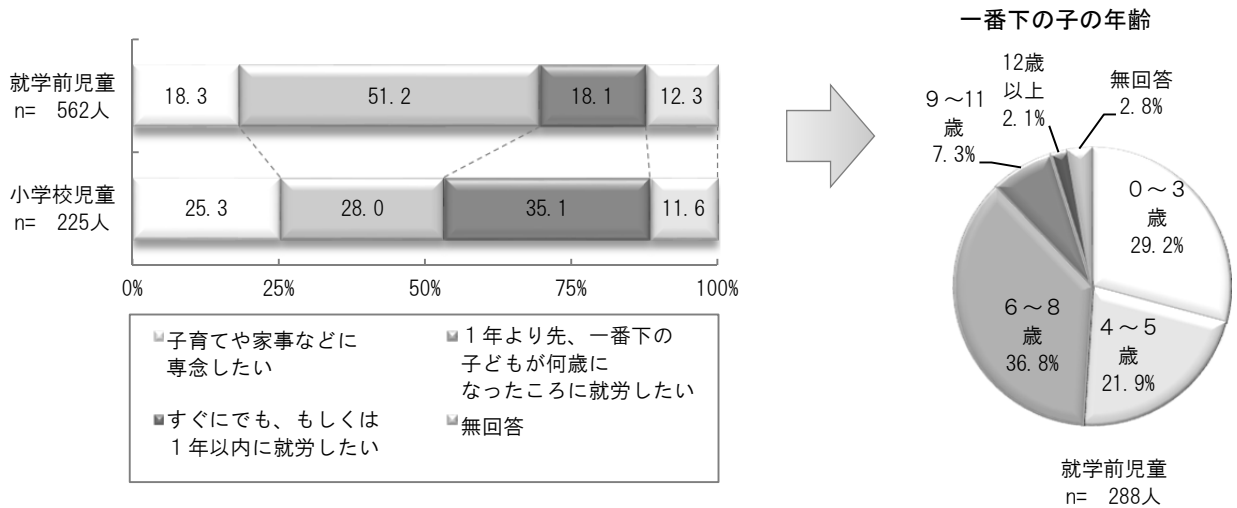
- ▼ 母親の就労状況を見ると就学前児童保護者では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(47.3%)が最も多く、小学校児童保護者では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護・その他休業中でない」(39.9%)が最も多くなっています。

図表1-2-23 母親の就労状況



- ▼ 就労していない母親の今後の就労希望は、就学前児童保護者（69.3%）、小学校児童保護者（63.1%）が就労意向をもっています。1年より先の就労希望では、就学前児童保護者（51.2%）となっており、一番下の子の年齢が「6～8歳」になったところが36.8%で最も高くなっています。

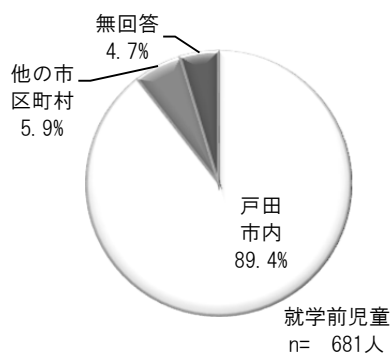
図表1-2-24 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



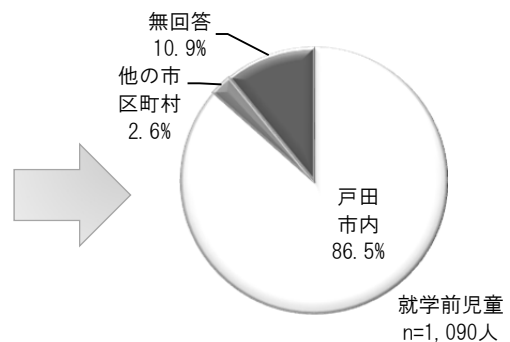
②子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

- ▼ 教育・保育の実施場所は、利用状況では「戸田市内」（89.4%）、希望実施場所では「戸田市内」（86.5%）と高くなっています。

図表1-2-25 教育・保育の実施場所

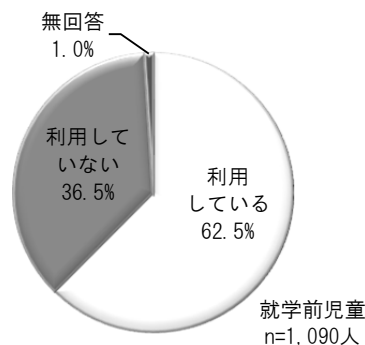


図表1-2-26 教育・保育の希望実施場所

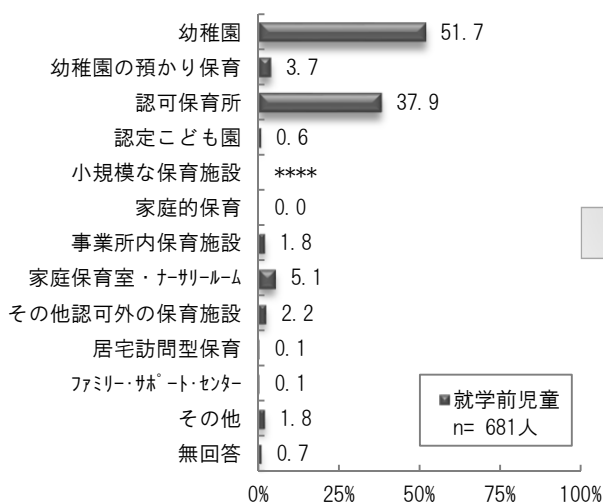


▼ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」(62.5%)、「利用していない」(36.5%)となっています。今後の利用希望(利用していない人も含む)の伸びをみると「幼稚園」(62.2%)が10.5ポイント増、「認可保育所」(43.0%)が5.1ポイント増、「幼稚園の預かり保育」(29.9%)が26.2ポイント増となっています。また、「認定こども園」(17.0%)の利用希望となっています。

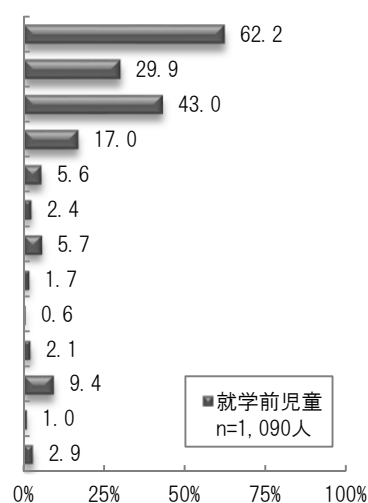
図表1-2-27 定期的な教育・保育事業の利用状況



図表1-2-28 利用中の定期的な教育・保育事業

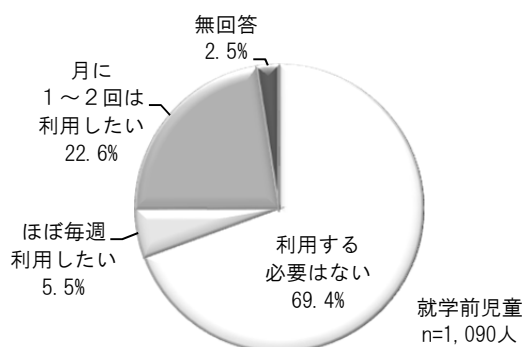


図表1-2-29 希望する定期的な教育・保育事業

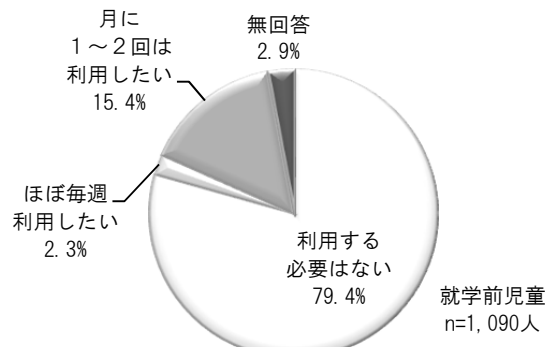


▼ 土曜日、日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望では、「月に1～2回は利用したい」(土曜日22.6%、日曜・祝日15.4%)、「ほぼ毎週利用したい」(土曜5.5%、日曜・祝日2.3%)となっています。

図表1-2-30 土曜日の利用希望

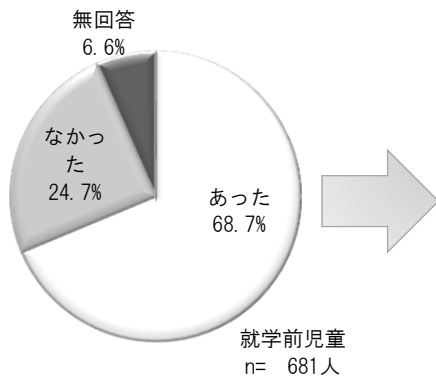


図表1-2-31 日曜・祝日の利用希望

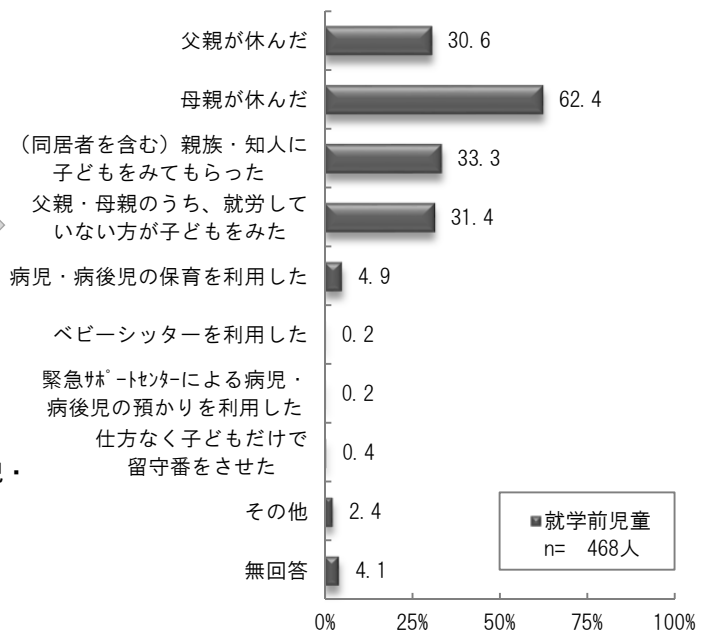


▼ 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことは「あった」(68.7%) となっています。この1年間の対処方法は、「母親が休んだ」(62.4%)で最も多くなっています。父親・母親が休んだ人の病児・病後児保育施設の利用意向は、(38.7%) となっています。

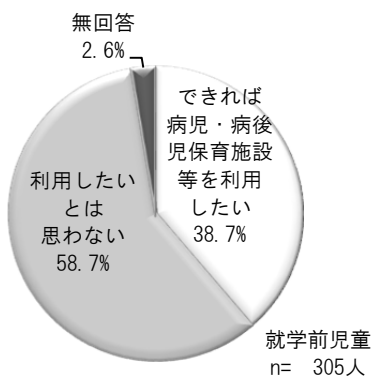
図表1-2-32 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



図表1-2-33 この1年間の対処方法

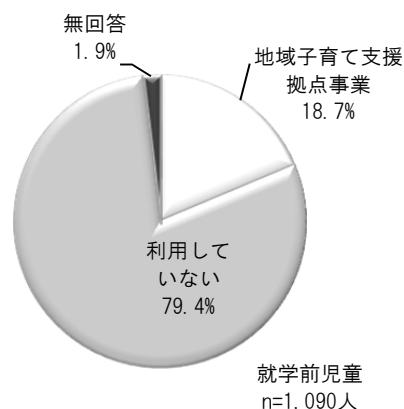


図表1-2-34 父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向

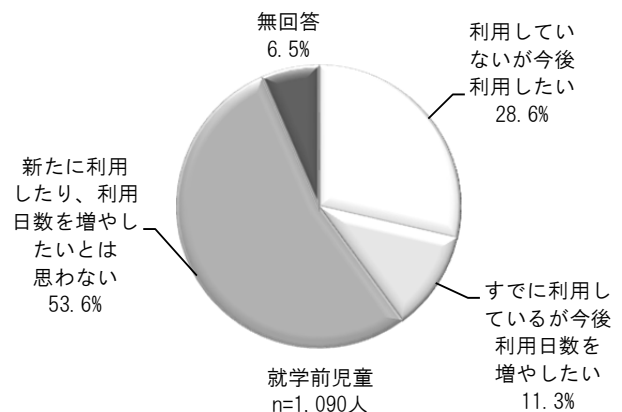


▼ 地域の子育て支援拠点事業の利用状況は、「地域子育て支援拠点事業」(18.7%) となっており、今後の利用意向では、「利用していないが、今後利用したい」(28.6%) と増加傾向にあります。

図表1-2-35 地域子育て支援拠点事業の利用状況

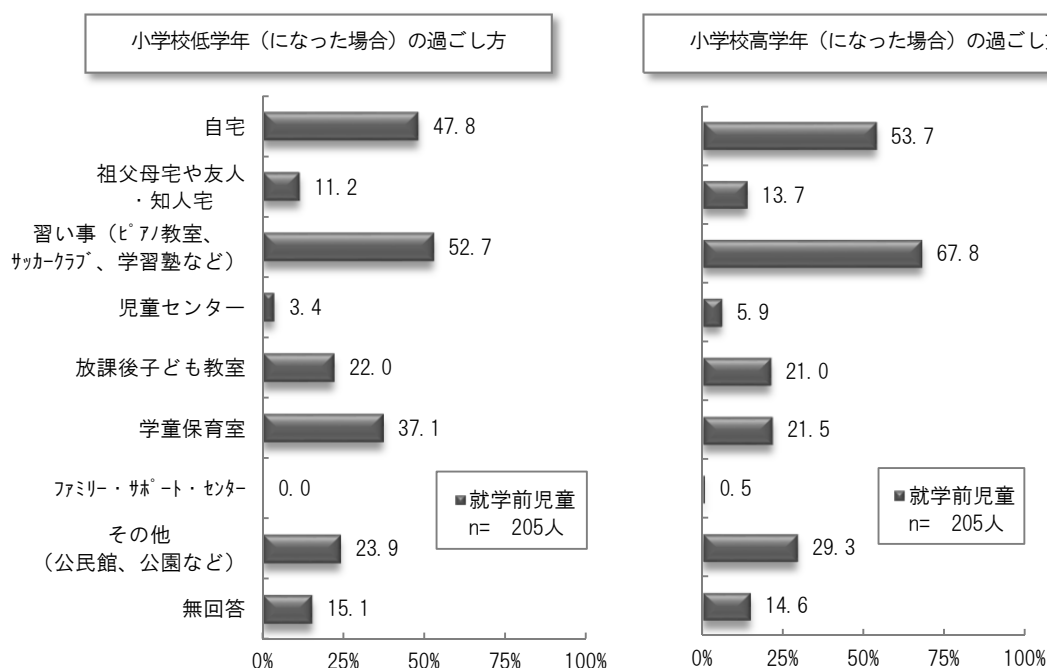


図表1-2-36 未利用者・利用者の利用及び利用回数増加希望

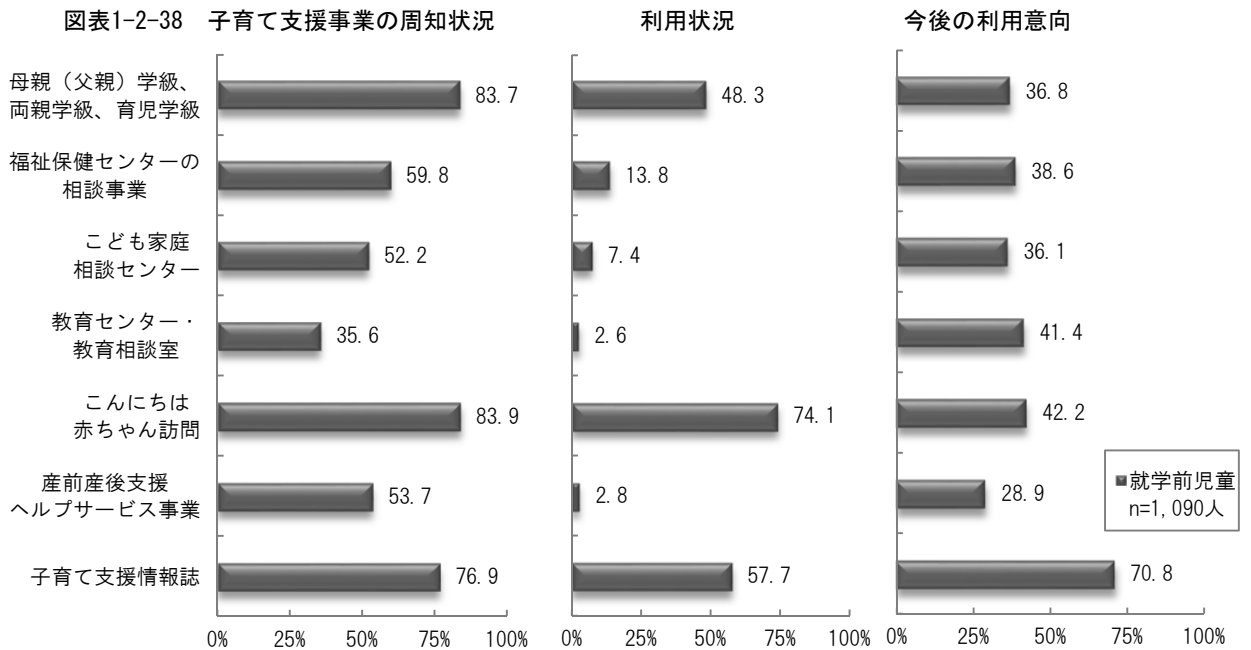


- ▼ 放課後の過ごし方の希望（就学前児童5歳以上）をみると、小学校低学年（になった場合）の過ごし方では「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（52.7%）、「自宅」（47.8%）、「学童保育室」（37.1%）となっています。高学年（になった場合）の過ごし方は「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（67.8%）と「自宅」（53.7%）が増加し、「学童保育室」（21.5%）が減少しています。学童保育室の土曜日の利用希望は、「低学年の間は利用したい」（25.6%）、「高学年になっても利用したい」（14.6%）という希望となっています。長期休暇期間中の利用希望は、「低学年の間は利用したい」（12.3%）、「高学年になっても利用したい」（8.2%）となっています。

図表1-2-37 放課後の過ごし方の希望



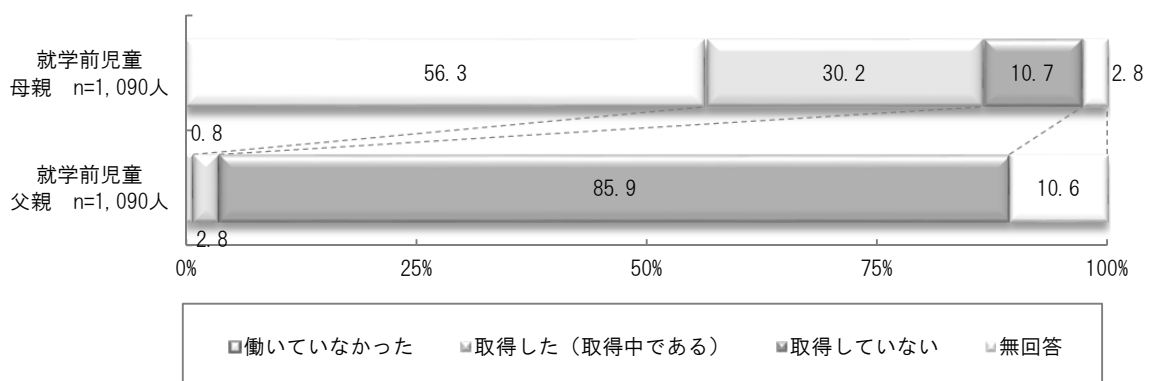
▼ 子育て支援事業の周知度をみると、「教育センター・教育相談室」が35.6%となっていますが、「こんにちは赤ちゃん訪問」(83.9%)、「母親(父親)学級、両親学級・育児学級」(83.7%)、「子育て支援情報誌」(76.9%)などは高くなっています。また、今後の利用意向をみると、「子育て支援情報誌」(70.8%)で他事業も利用状況からみると高くなっていることから、情報を得る手段や正しい情報を得たいということがうかがえます。



③育児休業制度の利用状況

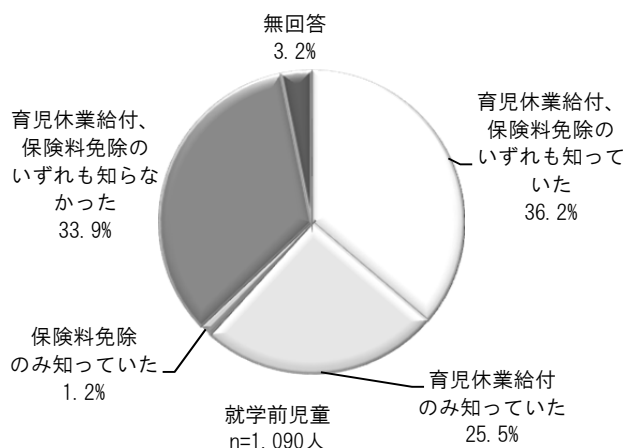
▼ 育児休業制度の利用状況は、母親「働いていなかった」(56.3%)、「取得した(取得中である)」(30.2%)、父親「取得した(取得中である)」(2.8%)となっています。

図表1-2-39 育児休業制度の利用状況



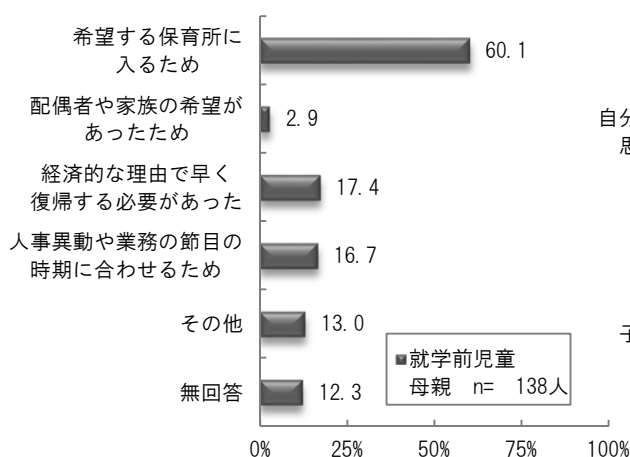
- ▼ 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」(36.2%)、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」(33.9%)、「育児休業給付のみを知っていた」(25.5%)となっています。

図表1-2-40 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みを知っている

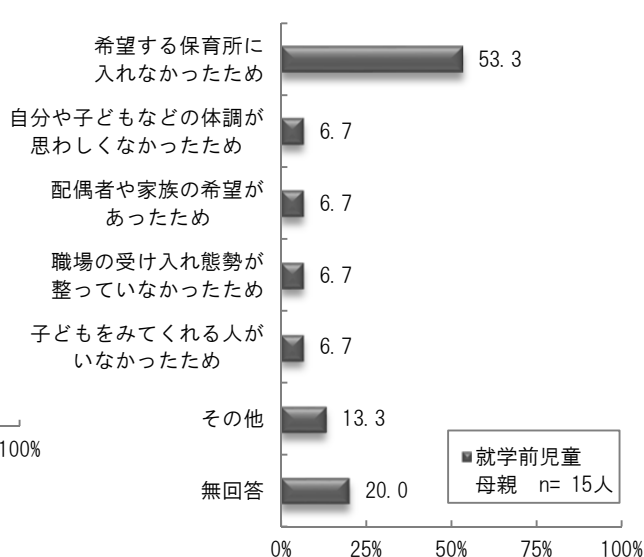


- ▼ 育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入るため」(60.1%)、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」(17.4%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(16.7%)となっています。一方、育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入れなかったため」(53.3%)が最も高くなっています。

図表1-2-41 育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由

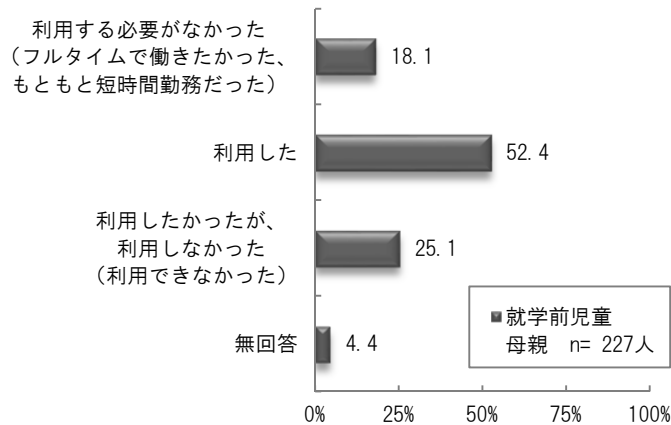


遅く復帰した理由

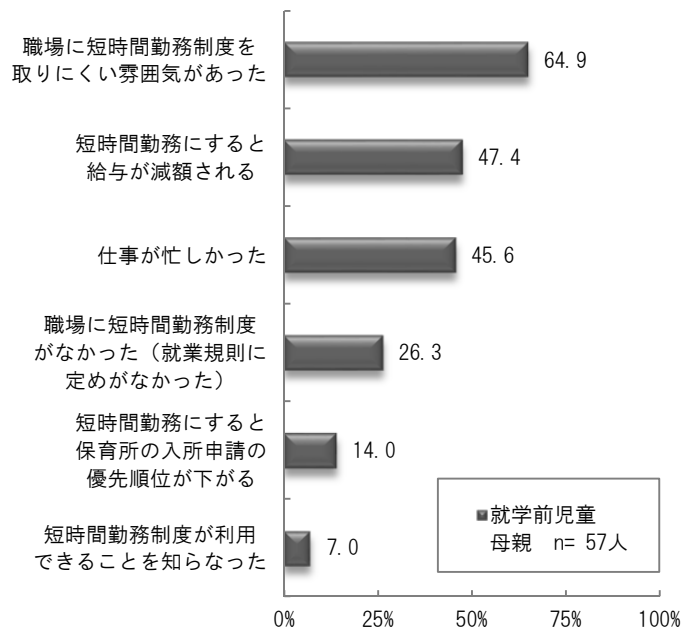


- ▼ 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親が（52.4%）の利用となっています。職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由をみると、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」（64.9%）、「短時間勤務にすると給与が減額される」（47.4%）となっています。

図表1-2-42 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



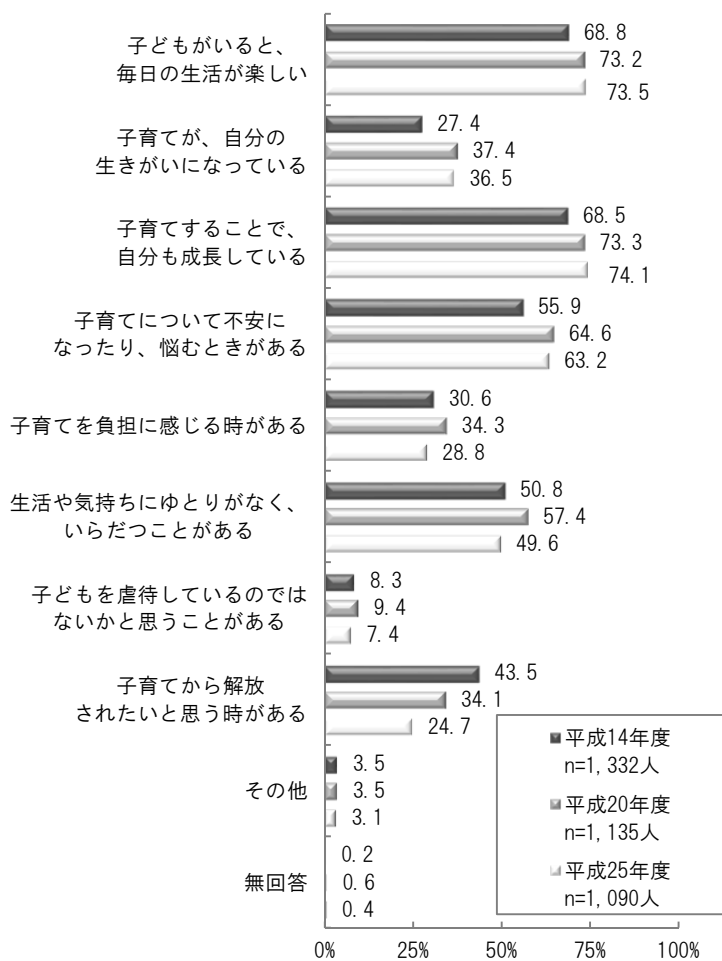
図表1-2-43 利用しなかった理由（上位6項目）



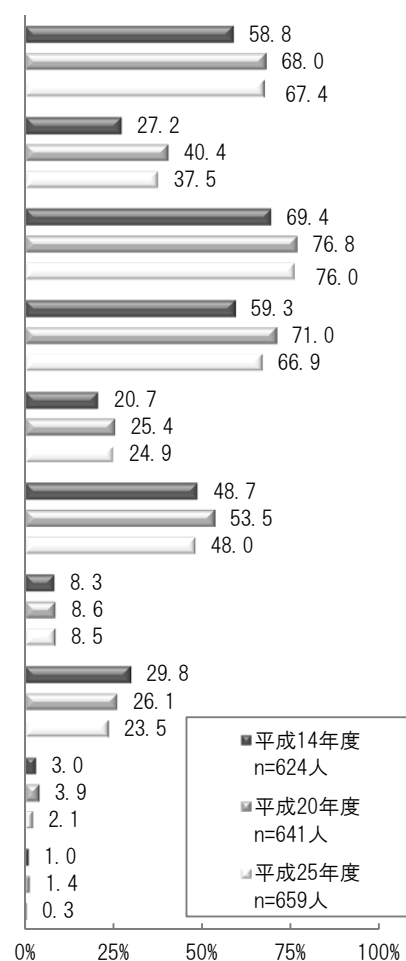
④子育て中の今の気持ち（経年変化）

▼ 「子どもがいると、毎日の生活が楽しい」「子育てすることで、自分も成長している」は、前回調査とほぼ同じ割合で、「子育てを負担に感じる」や「不安になったり悩むときがある」、「気持ちにゆとりがなく、いらだつことがある」は、就学前・小学校児童保護者ともに減少しています。子育てに楽しさや意義を感じる一方、不安感や気持ちのゆとりのなさは、減少傾向となっていますが、一定の割合はあることがうかがえます。

図表1-2-44 就学前児童保護者



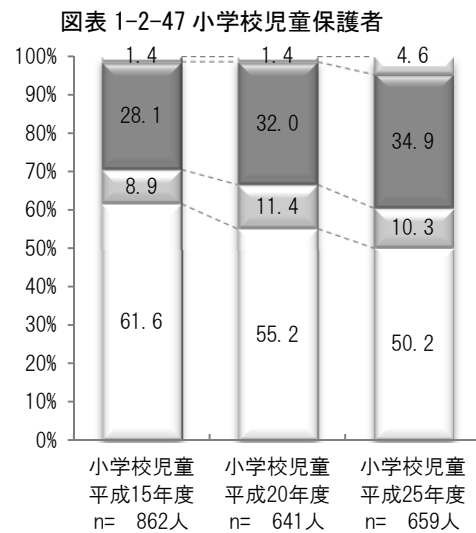
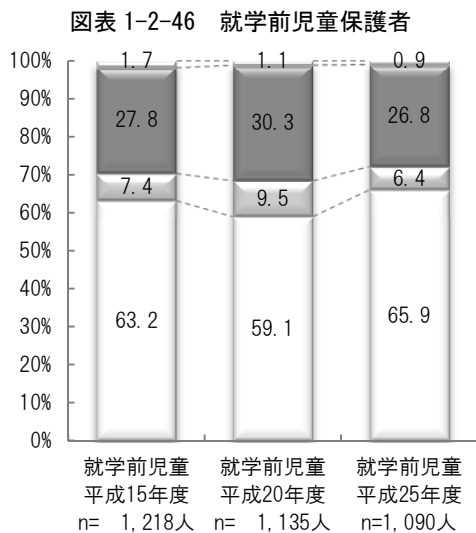
図表1-2-45 小学校児童保護者



資料：平成14年度は「戸田市児童育成計画」策定時の調査
 平成20年度は「戸田市次世代育成支援行動計画（後期計画）」策定時の調査
 平成25年度は「戸田市子ども・子育て支援事業計画」策定時の調査

⑤ ゆっくりとした気分で子どもと過ごせる時間の有無（経年変化）

▼ 平成20年度と比較すると「はい」と回答しているのは、就学前児童保護者は（6.8ポイント）上昇し、小学校児童保護者は（5ポイント）低下しています。



■はい ■いいえ ■なんともいえない ■無回答

■はい ■いいえ ■なんともいえない ■無回答

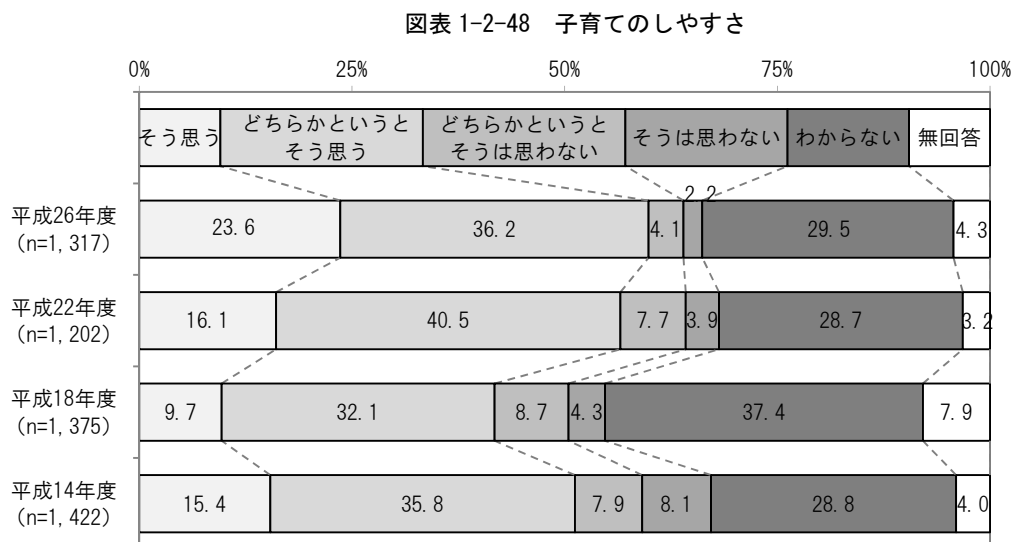
資料：平成15年度は「戸田市次世代育成支援行動計画（前期計画）」策定時の調査
 平成20年度は「戸田市次世代育成支援行動計画（後期計画）」策定時の調査
 平成25年度は「戸田市子ども・子育て支援事業計画」策定時の調査

(2) 市民意識調査（抜粋）

平成26年5月26日に、市民3,000人を対象に市民意識調査を実施しました。

① 子育てのしやすさ（経年変化）

▼ 戸田市の子育てのしやすさについては、「そう思う」（23.6%）と「どちらかという
 とそう思う」（36.2%）を合わせた肯定的な意見が59.8%で過半数を超えています。
 平成22年度調査と比較すると肯定的な意見が3.2ポイント上回っています。



②子育てに関する満足度

▼ 「児童手当や子ども医療費助成など金銭的支援」と「保育園や幼稚園、学童など通常の預け先」については、「満足」と「まあ満足」を合わせた肯定的な意見が30%を超えています。一方で「一時保育や病児保育など臨時的な預け先」、「不安や悩みを聞いてもらえる相談の場」、「地域の人への声掛けや協力」については、肯定的な意見に関して、10%台と満足している人の割合が低くなっています。

図表 1-2-49 子育てに関する満足度

